

委員No.	意見
1	<p>コロナ禍の阿波おどりをどう振興していくかについては、大変難しい問題であるがコロナ対応の工夫と広報の充実などを図り事業を推進していくことが必要。幅広い意見を取り込んで、ウイズコロナ、アフターコロナにおける阿波おどりの在り方を検討し、安全で効果的な事業開催をしていくことが大切と考える。</p>
2	<p>徳島といえば「阿波おどり」と認知されている最大の地域資源について、「これまで」のスタイルから脱皮する時期が来ていると感じています。</p> <p>「阿波おどりの振興」は、人手(観客数や出演者数)や開催規模だけで判断できるものではなく、今一度「誰のための阿波おどりか？」を考え再構築すべきであると考えます。観光客の事前期待度と満足度の向上とともに、地元住民が自分たちの生活エリアで楽しむ阿波おどりのスタイル、伝統を大切に「文化」としての阿波おどりの伝承など視点はたくさんあります。</p> <p>開催規模は縮小しても、満足度と楽しさは拡大する阿波おどりを、市民と一緒に作っていただければと思います。</p>
3	<p>このようなファンディングの取組は重要であると考えられるが、現状では寄付件数(額)が少ない。施策の強化が求められる。</p>
4	<p>本事業は、徳島市にとって重要な位置づけにある。コロナ禍において予定より縮小開催となったものの、中止をせずに新しい取り組みにチャレンジをしたという一定の成果が見られた。引き続き効果的な取り組みとなるよう創意工夫を行い、ポストコロナ時代に力強く開催できるよう、推進を図り情報発信に努めていただきたい。</p>
5	<p>阿波おどりは、徳島の重要な文化であり、観光資源でもある。</p> <p>関係者や参加者にとって持続可能なものとなるよう、引き続き制度を利用しながら取り組んでほしい。</p>
6	<p>コロナ禍の取り組みで、手探りで進めなければならなかった難しい事業であったかと思う。それでも事業のPDCAを進めて、「阿波おどりを未来へつなぐ」ためには具体的な目標値を定める必要があったと考える。対象事業費と寄付額が示されているが、寄付金額や事業費に対する寄付金額の割合をKPIにしてはどうだろうか。それが本事業に対する客観的な外部評価の1つになると考える。</p> <p>目標値と実績値がともに「縮小開催」とあるが、実績値は「阿波おどりの人出(発表数)」と「その2019年比」を示すほうが良いと考える(資料として価値が高くなる)。</p> <p>寄付金額が事業費の0.3%というのは寂しい。</p>
7	<p>阿波おどりを維持するためには必要な取組だと思う。</p> <p>ニューノーマルモデルの阿波おどりがイメージ出来ないのですが具体的にどのようなものなのか教えて欲しい。</p>
8	<p>賛同企業の拡充が必要。</p>